

伝統の「茶摘み」生徒ら体験

蘇南高

茶の産地として知られる南木曾町にある蘇南高校（杉村修一校長）でこのほど、伝統行事の「茶摘み」が行われた。1年生と新任教員ら約70人が、敷地の一角にある約2畝の茶畑で、茶の一種「ヤブキタ」の新芽約20ギを摘み取った。

生徒たちは芽の先端を丁寧摘み、ビニール袋の中に入れた。茶

摘みが初めてという生徒も多く、南木曾の産業に理解を深めていた。大桑中学校出身の夏舘弘輝君（16）は「校内に茶畑があるのに驚いた。貴重な体験ができてうれしい」と話していた。

摘み取った生葉は町内の製茶工場で加工し、来客に提供する。今年は生徒が茶を飲む機会も検討するといふ。（細野はるか）

茶摘み体験をする生徒たち

